

ぼいす

北区飛鳥山博物館だより
2017.3.20

38

春期企画展

浮世絵の愉しみ

異なる主題による4回の展示実践 キューレーション



【会 期】

平成29年 3月11日(土)～
6月18日(日)

【開館時間】

午前10時～午後5時

【休 館 日】

3月20日を除く毎週月曜日
および
3月21日(火曜日)

【会 場】

北区飛鳥山博物館
特別展示室・ホワイエ

浮世絵の愉しみ

異なる主題による
キューレーション
4回の展示実践

【開催にあたって】

江戸時代から近代にかけて北区の名所を描いた浮世絵は、これまでに約400点以上の存在が知られています。これらの浮世絵は、文字資料からではうかがい知れない貴重な地域情報に満ちていて、いにしへの飛鳥山・王子稻荷社・滝野川の光景を今に伝えています。

本企画展では、北区飛鳥山博物館で所蔵する北区関連の浮世絵系風景版画約160点を中心に、それぞれ異なる4つの主題にもとづき、4回のテーマ展示としてご紹介するものです。

この展観を通じて、近世から近代にかけて大きく変貌をとげた北区の名所の景観と、そこに憩う伸びやかな人々の姿をお愉しみいただけますならば幸いです。

【展示構成】

ホワイエ

パネル展示 描かれた北区の名所

— 館蔵浮世絵版画 —

特別展示室

各回のテーマ展示名称および期間は以下の通りです。

- 第1回 時間：北区の名所浮世絵の展開
3月11日（土）～4月2日（日）
- 第2回 空間：王子・飛鳥山・滝野川
4月4日（火）～4月30日（日）
- 第3回 表象：描かれた富士山・筑波山・飛鳥山碑
5月2日（火）～5月28日（日）
- 第4回 絵師：広重が見た北区の名所
5月30日（火）～6月18日（日）



江都名所 飛鳥山はな見 初代歌川広重
大判横 天保3～5年（1832～1834）



名所江戸百景 飛鳥山北の眺望 初代歌川広重
大判竖 安政3年（1856）



吾妻夏十景 王子 鳥居清長
中判竖 天明6年（1786）頃

Voice

博物館では正しく漏れなく伝えていきたい

在職年数が数える程になりました。北区で働き始めて30数年。最近では区民や利用者の方々に語り残していることはないか書き残していることはないか、自問自答しながらの日々を送っています。今後は北区で拾ったものは全て北区に置いていくことを基本姿勢に学芸員活動をしたいと思えます。

さて、筆者は本誌34号（2015年3月）にて明治10年（1877）12月西ヶ原に立地した樹木試験場の見本一覧について解説しました。その際、本資料は中十条（上十条の間違いでした。お詫びします）の農家・榎本仁一家に伝来していたことを記述しましたが、伝来理由は不詳としたのでした。ところが、印刷後に約30年前の寄贈時に聞き取り調査があったのを思い出し当時の資料を探したところ、関連

事項が確認できましたので、今号でお報せすることにします。

仁一さんの曾祖父^{これまさ}惟将氏は7代目で、当主は代々「七郎兵衛」を名乗りました。農業の傍ら様々な仕事に手を染めており、明治10年頃には農事試験場に雇われて静岡県在天城山中で植林作業に従事したことがあったそうです。農事試験場の立地は明治20年代なので、試験場は樹木試験場と思われます。よって、同家に伝来していたのは偶然ではなくて必然でありました。長年の勤務ですっかりそのことを忘れていたのです。資料解説は疎かにできないと実感した次第です。（中野）



大地・水・人

飛鳥山花見の景

増田 由貴

飛鳥山といえばという質問に対して、博物館と答える人はそう多くはないだろう。多数を占める回答は、おそらく桜や花見ではないだろうか。江戸時代後期の人々もそうであったようだ。その頃の様子を浮世絵に描かれている。江戸時代の北区域、とりわけ飛鳥山の景を最も多く描いたのは、浮世絵風景版画の第一人者として知られる初代歌川広重である。その作品から1点を取り上げ、江戸後期の人々がイメージした春の飛鳥山の光景を見てみたい。

「江戸名所図会 飛鳥山」は、大判3枚続で天保14～弘化4年（1843～1847）頃に刊行された。『江戸名所図会』といえば天保5～7年（1834～1836）に刊行され、評判となった江戸の地誌である。同書所収の長谷川雪旦せつたんによる挿絵の構図は、広重も複数の作品で参照していることが知られる。本作でも、その詞書ことばがきは同書「王子村」の「飛鳥山」の項の記述を部分的に引用している。

しかし、その構図は雪旦の俯瞰図に飽き足らないかのように展開する。遠景に見えるのは富士山である。飛鳥山の丘陵は荒川や石神井川の流に育まれた自然地形により、名所にふさわしい眺望を誇っていた。他の広重作品には、山上から北側に筑波山を望む図もある。それほど絶景であれば、実際には他の名山も見えたことだろう。事実、飛鳥山からの眺望十二景を吟じた『飛鳥山十二景詩并序』（享保18年、1733成立）には、「秩父遠影」や「黒髪山残雪」が取り上げられているが、広重作品には確認できない。

山上左端にはやうい矢来を巡らせた飛鳥山碑が見え、碑を囲むように巨木の松が聳える。碑文を眺める人はいずれも男性であり、うち一人は二本差の武士のようだ。難読で知られた碑文に対して、男性や知識人階級を配することは他の作品にも散見される。飛鳥山に桜を植えかつ庶民の遊興の場として開放した徳川吉

宗の功績を讃える碑文に、不老長寿を意味する松を並べる構図は、江戸幕府繁栄の象徴である。こうした定型による構図は天保期（1830～1844）の初代広重作品に複数あり、また幕末の二代広重にも踏襲されている。浮世絵の場合、残存の多さは刊行当時の需要の高さを意味しており、江戸の人々に期待されうる飛鳥山の景であったことが分かる。

ただし、それが必ずしも実景とは限らない。富士山を望む方向であれば、画面上の石碑は飛鳥山の来歴を記した面の裏側にあたるが、その形状は表から見た様である。広重は実在の景観要素を取捨選択し、適宜組み合わせながら理想的な風景を創出しているのである。

本作に特徴的なのは、人物を前景に配した点である。毛氈もうせんの上では四人の女性が酒食や音曲に興ずる。赤い手絡てがらのつづし島田や島田髻の妙齡の女性がおり、丸髻に黒紋付の女性が年長のような。折詰弁当や煙草盆、爛付けの道具まで持参する準備の整えようである。弘化～嘉永期（1844～1854）の広重は再び美人画も手掛けるようになり、本作ではこの時期の広重ならではの風景と美人の融和が奏功している。水に育まれた大地に、人が創り人が興ずる様が見事に描写されている。

江戸の飛鳥山の景を構成する拠り所が吉宗の「芳蹤ほうしゅう」（名高い事蹟）であるなら、現在の飛鳥山を支えるものは何であろうか。望むらくは、拙文をご覧くださいる皆様の飛鳥山を愛する想いであってほしい。そろそろ花見の季節が来る。今年も飛鳥山で桜を愛でられることを誇りに思う。



初代歌川広重 江戸名所図会 飛鳥山 天保14～弘化4年（1843～1847）頃
大判3枚続 藤岡屋彦太郎

あるく・みる・きく 『北区の文化財ロードをあるく』

北区の日光御成道(岩槻街道)沿いには、見どころがたくさん。なかでも、王子神社から旧古河庭園にかけては、区・都・国の文化財が密集しています。文化財の種類も、天然記念物の大イチョウから、民俗芸能、建造物、考古遺跡などさまざまです。これだけ文化財の密度の濃い場所は、区内はもちろん、都内でも珍しく、じっくり見ようと思うと、2日くらいかかってしまうのではないかとこのエリアなのです。

毎年秋に開催している野外講座「北区文化財めぐり」では、学芸員が解説しながら回っていますが、今回は、野外講座では時間がなくてカットしているところも合わせてご案内します。

各文化財所在地には、文化財説明板(★マークの地点)が立っています。コース中間地点の飛鳥山には、当館を含めた3つの博物館もあります。ゴールの旧古河庭園まで、北区の文化財ロードをじっくりお楽しみください。



8月に奉納される王子田楽
戦災を焼け残った大イチョウ
王子神社



飛鳥山の花見を仕掛けた
將軍吉宗をたたえる
飛鳥山碑



渋沢栄一へのビックな贈り物
旧渋沢家飛鳥山邸(晚香廬・
青淵文庫)

江戸名所不動の滝跡
青面金剛種子庚申供養塔
近藤重蔵の石像



赤レンガの酒造工場
旧醸造試験所第一工場

飛鳥山3つの博
物館
開館情報は、本
紙8ページをご
らんください。



地元の熱意で保存された
西ヶ原一里塚



★=文化財説明板
各文化財所在地には、文化
財説明板が立っています。



コンドルの洋館と
植治の日本庭園
旧古河庭園



『北区のたからばこ』
街歩きのお供に、ガイドブックはいかがですか？
区内の文化財を写真付で紹介しています。北区飛鳥山
博物館と北区役所区政資料室にて販売中。(500円)

開園：9:00～17:00
(入園16:30まで)
入園料：一般 150円
65歳以上 70円

イベント・レポート **こんにちは赤ちゃん体験講座** 「アーユレディ? 博物館でお産準備」5月15日(日)

少し前のことになりますが、昨春、当館では一風変わった体験講座を開催しました。そう、妊婦さんとそのご家族を対象にした講座です。

当館には平成22年(2010)春より、授乳やおむつ替えができる「赤ちゃん休けい室」が設置されています。無料ゾーンにあることもあって、特にお天気の良い日などには多くの方にご利用いただいています。ですが、そういった小さなお子さん連れが館内の展示をじっくりと見たり、講座に参加したりという姿をみることは、残念ながらそう多くはないのです。なので親子連れも気軽に参加できる講座、子どもと一緒に当館で楽しく過ごす方法がわかる講座…そんな博物館の宣伝も兼ねた体験講座をしてみてもどうかと考えたのが本企画のはじまりでした。

当日は「これから生まれてくる赤ちゃんのための準備を博物館でしましょう!」をコンセプトに、体操などを通しての妊婦の身体づくりと、安産や子どもの健やかな成長を願う郷土玩具「犬張り子」づくりをしました。嬉しい飛び込み参加もあり、おかげさまで4組11名の方々にご参加いただくことができました。中には、これからお兄ちゃんやお姉ちゃんになるというお子さん連れの方もいて、優しい雰囲気の中での開催となりました。本講座は、今年の5月14日(日)にも開催を予定しています。みなさまのご応募をお待ちしております(安武)。



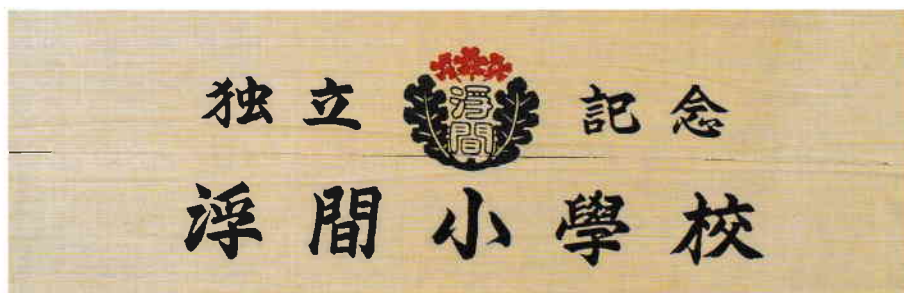
妊婦の身体づくり
助産師の篠井沙織氏にご指導いただきました。

モノの記憶—収蔵品が語る物語— 浮間小学校独立記念 手ぬぐい

当館の収蔵品のなかに浮間在住の方から寄贈された手ぬぐいがあります。残念ながら二つに裁断されていますが、長さ約92cmの晒の手ぬぐいには「浮間小学校」の校名と桜草を象った校章、そして「独立記念」の文字が力強く染められています。この4文字の言葉には、浮間地域の長く熱い思いがこめられています。

かつて浮間は埼玉県に属する地だったので、明治時代の浮間の児童は横曽根村(現 川口市)の学校までカヤが生い茂る道を通って通学し、同30年(1897)から低学年のみが浮間村内に開かれた分教場に通っていました。大正3年(1914)に荒川放水路(現 荒川)の開削が始まると、浮間は横曽根村から分断されて通学が一層困難となり、同11・12年頃から4年生以上は岩淵尋常高等小学校(現 赤羽小学校)で学ぶようになります。同15年(1926)、浮間が岩淵町に正式編入されると、低学年は袋(現 赤羽北)の分教場へ、3年生以上は岩淵へと通学するようになり、その後も第四岩淵尋常高等小学校(現 第四岩淵小学校)、袋国民学校(現 袋小学校)へと異動を重ねました。

やがて昭和26年(1951)7月から、浮間に設けられた袋小学校の分校に4年生までが通学するようになり、同28年4月、ついに同分校が独立して浮間小学校が開校。晴れて全学年が地域の同じ学校に通えるようになったのです。手ぬぐいの文字は当時の浮間住民の喜びと誇らしさを伝えています。(久保埜)



学芸員 の 本棚



『日本のすまい・内と外』

エドワード・S・モース 著
上田篤・加藤晃規・柳美代子 共訳
鹿島出版会 1979年発行

著者のエドワード・シルベスター・モースは、明治時代に大森貝塚を発見したアメリカ人として教科書にも出てくる人物です。明治10年（1877）に初来日したモースは東京大学の動物学教室の教授に就任します。明治10年（1877）から明治15年（1882）までの間に3回来日と帰国を繰り返していますが、本書はこの間にモースが訪れた日本各地の「すまい」の観察記録をまとめたものです。アメリカに帰国後の明治19年（1886）初版が発行され、ご紹介している鹿島出版会の本は、モース自身が初版の誤り等を修正した改訂版の訳本になります。タイトルのとおり、様々な日本家屋の構造や間取り、細部の意匠などがモース自身の多くのスケッチと共に紹介されていて、大工道具や風呂おけ、盆栽など住生活に関わる道具や庭などに

までモースの関心は及んでいます。本書は明治初期の日本家屋の記録として貴重な資料であることはもちろんですが、異なる文化を理解するために必要な心構えのようなものを私たちに示唆してくれます。著書の中でモースは「他国民を考察するばあい、可能なかぎり、かたよらないメガネをとおして、物事をみるようにすべきである。」と記しています。この姿勢は本書にも当然反映され、日本の文化に対する謙虚さとある種の礼節を踏まえたうえで、日本のすまいについての考察や感想が、時に自身の母国であるアメリカの住まいとの比較をしながら書かれています。

21世紀の今、130年前に書かれた本書が、変わらず日本人の住まい方に示唆を与えるのもこうした点が大きいのでしょうか。（山口）

写真にみるあの日あの時

この1枚の写真は下十条駅の入口を写したものです。「はて？下十条駅ってどこ？」今はその名の駅は存在しませんが、東十条駅といえばお判りでしょう。そうです、その昔東十条駅は下十条駅と呼ばれていたのです。この写真は東十条駅南口のかつての姿です。下十条駅の開業は古く、昭和6年（1931）のこと。昭和32年（1957）に町名変更で下十条の名がなくなったことから、駅名も変更になりました。写真をよく見ると現在の駅とちょっと雰囲気違います。駅舎の前に広場があるのです。広場の右は売店でしょうか。庇の下に人が見えます。昭和43年（1968）に駅舎が改築され駅の入口が道路に面するようになりました。写真が撮られたのは昭和26年11月3日。そうです、文化の日です。国旗が掲揚されているのはそのためです。真ん中に写っている青年は祝日だという

かつての下十条駅の姿

のに学生服を着てどこに行くのでしょうか？よく見ると足元は下駄をはいています。戦後からまだ6年しか経っていないこの頃、あまりオシャレにお金をかけられなかったのでしょうか？それとも肩で風切るバンカラを気取っていたのでしょうか。なにか時代を感じますね。（鈴木）



博物館インフォメーション

○博物館実習生を受け入れます

大学の学芸員養成課程における館務実習の博物館実習生を募集します。実施は7月25日(火)から8月6日(日)までの2週間(実質12日間)です。応募締め切りは4月の30日(日)まで(必着)。募集内容の詳細は下記HPアドレス、もしくは「北区飛鳥山博物館」で検索してチェックしてください。

<https://www.city.kita.tokyo.jp/hakubutsukan/>

○今年もやります!夏休みわくわくミュージアム

北区飛鳥山博物館の夏の風物詩といえば“夏休みわくわくミュージアム”!恒例の土器作りや勾玉づくりのほか、自由研究にうってつけの展示など、今年もさまざまな催し物をご用意いたします。夏は親子で博物館へGO!



かわいい勾玉ができました

○好評発売中!オリジナルミュージアムグッズ

当館のオリジナルミュージアムグッズの中でも人気ののが、マスコットキャラクター「コン吉」のぬいぐるみ!チェーンが付いていてカバンから提げられます。大きさも大小2種類あります。小が390円、大が500円。他では買えないかわいい「コン吉」のぬいぐるみを博物館でゲット!

○人物往来

平成29年3月末をもちまして非常勤学芸員の増田由貴が退職することになりました。これまでのみなさまからのご温情、ありがとうございました。

○北区の昔を伝える資料や写真を探しています!

当館では、北区内で使われていた生活用具や、北区内を写した懐かしい写真など、昔の暮らしぶりが見える資料を探しています。お心当たりがある方は、ぜひ博物館(03-3916-1133)までご一報ください。

○館内消毒にともなう臨時休館

大切な収蔵資料を虫害やカビから守る燻蒸(くんじょう/殺虫・殺菌処理)を行うため、7月4日(火)~7日(金)は臨時休館とさせていただきます。詳細な日程は、北区ニュースやホームページ等でお知らせいたします。なにとぞご理解のほど、よろしくお願いいたします。

お客様からのボイス

催し物にご参加いただいた方々からのボイスをご紹介します。

○説明を聞きながら浮世絵の中にタイムスリップしたかのように、とても素晴らしい講座の内容でした。講師の方の話し方にうっとり。まるで落語を聞いているようでした。(講座「浮世絵に見る飛鳥山と滝野川」ご参加の方より)

・みなさまに楽しんでいただくのが学芸員の務め。時には落語家のような話術も必要です。次はどんなお話をしようかな!?(編)

○田楽の実地を見なければ!(講座「江戸文人墨客が見た王子田楽」ご参加の方より)

・是非ご覧になってください!王子田楽は、色鮮やかな花笠を被った舞童が“ささら”や小太鼓を持って躍る優雅な舞で、王子神社で毎年8月初旬に行われます。(編)

○とてもおもしろかった。江戸の旅人も名勝地を見ながら、案外楽しく旅をしたのでは!(講座「晩秋の日光御成道を歩き歴史を訪ねる」ご参加の方より)

・江戸の旅人の気分浸りに浸っていただけましたらなによりです。これからも楽しい野外講座を企画いたします。(編)

○次回も当選できるように、クジ運をみておきます。(講座「考古学講座 遺跡へ行こう!秋」ご参加の方より)

・応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。なにとぞご了承を。そして幸運を祈っております。(編)

○虎塚古墳、とてもとても感激!コーフン(古墳)しました!(講座「考古学講座 遺跡へ行こう!秋」ご参加の方より)

・当日は他の団体見学のグループをご引率していた、古墳にコーフン協会会長で、古墳シンガーでいらっしゃる“まりこふん”さんとバツリ遭遇!こちらもコーフンしました。(編)

○小学生の講座はたくさんあるのですが、幼稚園児の講座は少ないのでうれしかったです。ほかにも園児が楽しく作れるような講座があるとうれしいです。(講座「あすかやまのどんぐりで「でんでんたいこ」づくり」ご参加の方より)

・幼稚園児対象の講座はほんのちょっとしかなくて申し訳ございません。これから幅広い年齢層にご参加いただける講座を企画していきたいと思っております。(編)

○最近、新聞で考古学関係の記事を読むとき、これは講座でとりあげられるかな?とったりします。今回は3つあたりました。(講座「第29回新聞から読む考古学—2016年下半年を振り返る—」ご参加の方より)

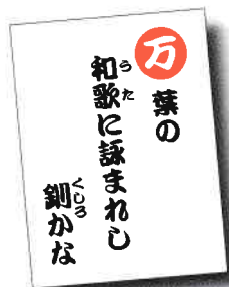
・普段から考古学記事を気に留めて頂き、ありがとうございます。次は全部あたりますように。(編)

○この土器が1000年使えるようにしたいです。〇〇家のたからもとして使いたいです。(講座「夏休み土器づくり教室」ご参加の方(こども)より)

・1000年後には博物館に展示されているかも!大切にしてください。(編)

○思っていたより力仕事でしたが、子どもも自分の力でがんばって作っていて、すばらしい作品ができて感動しました。(講座「夏休み勾玉づくり教室」ご参加の方(保護者)より)

・親子でいっしょに何かを作るのっていいですね。お子さんの普段見ることができない姿を見ることができたならなによりです。(編)



学芸員リレーエッセイ

博物館

ゆるは歌留多

当館の常設展示室には、「鉄釧」と呼ばれる2点の弥生時代の腕輪が展示されています。「釧」一字で、「くしろ」と読みます。耳慣れない言葉かもしれませんが、これは腕輪を意味する古語で、素材が鉄であることから「鉄釧」と呼ばれます。

昨年、鉄釧をテーマにサロン講座を開催しましたが、その際に、古語としての「釧」の用例に次のものがあることを紹介しました。

釧着く 手節（たふし）の崎に 今日もかも
大宮人（おほみやひと）の 玉藻（たまも）刈るらむ

万葉集に収められた歌で、持統天皇が伊勢に行幸された際の留守中の都において、柿本人麻呂によって詠まれたとされるものです。「手節（たふし）の崎」は三重県鳥羽市の答志（とうし）島のこと。「釧着く」は「手節」を導く枕詞として用いられています。「手節（=手首）」に着ける「釧」が、腕輪を意味する言葉であることを、この枕詞から知ることができるのです。

弥生時代の鉄釧は、細長い帯状の材をらせん状にグルグルと巻いた、腕輪としては特異な形状をしています。500年ほど後の世の歌人が目にしたとしても、それを「釧」であるとは認識できなかったかもしれませんね。（牛山）

利用のご案内

【開館時間】午前10時から午後5時 ※観覧券の発行は午後4時30分まで

【休館日】毎週月曜日（月曜日が国民の祝日・休日にあたる場合は開館し、直後の平日に振替休館）

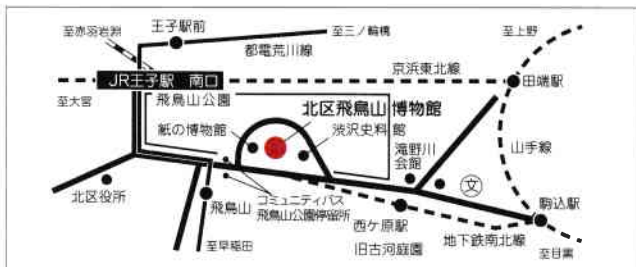
年末年始（12月28日～1月4日）

※このほかに臨時休館日があります。

【常設展観覧料】

- ・小学生未満は無料
- ・団体扱いは20名以上
- ・三館共通券は当館のほか、渋沢史料館、紙の博物館をご覧になれます。

	個人	団体	三館共通券
一般	300円	240円	720円
高齢者 (65歳以上)	150円		
小・中・高	100円	80円	240円



交通のご案内

【JR京浜東北線】	王子駅南口より徒歩5分
【地下鉄南北線】	西ヶ原駅より徒歩7分
【都電荒川線】	飛鳥山停留場より徒歩4分
【都バス 草64、王40系統】	飛鳥山公園停留所より徒歩5分
【北区コミュニティバス】	飛鳥山公園停留所より徒歩3分

編集後記

ぼいす38号、いかがでしたでしょうか。本ページに掲載の学芸員リレーエッセイ「博物館いろは歌留多」が始まったのは9号からですので、今回でかれこれ30回に上ります。長いなーと思いつつふと考えると「いろは」は48ですので、まだ18回も残っています。まだまだリレーは続きますが、これからバトンを渡す相手はだいたい変わっていくのでしょうか。（鈴木）

平成29年度 上半期の催し物予定

3月～6月

春

展 示

- 春期企画展「浮世絵の愉しみ 異なる主題による4回の展示実践」
..... (3/11～6/18)
- 関連事業「浮世絵の愉しみ キュレーションとワークショップ」
..... (4/8)

講 座

- 春暖の旧中山道を歩き滝野川へ向かう！..... (4/15)
- 考古学講座(中級編)考古学を学ぶーお墓の話・横穴墓ー
..... (4/23・30)
- 随筆にみる本郷台・十条台・赤羽台..... (5/13)
- アーユレディ？博物館でお産準備..... (5/14)
- 北区遺跡学講座2017「中里峡上遺跡」..... (5/20)
- 中世熊野と武士団豊島氏..... (5/21)
- 歴史発見！街めぐり..... (5/27)
- 中世豊島郡の民俗芸能と村落秩序..... (6/4)
- 王子貝層の謎を解く！..... (6/10)
- 北区遺跡学講座2017「南橋遺跡」..... (6/17)
- 醸造試験所の誕生..... (6/18)
- 座学+野外講座「富士塚めぐり」..... (6/25)

夏

7月～9月

展 示

- ドキドキ土器図鑑ー北区のやきもの大集合！ー
..... (7/22～8/27)
- 特別展覧会「第16回人間国宝奥山峠石と北区の工芸作家展」
..... (9月中旬～10月中旬)

イ ベ ント

- 夏休みわくわくミュージアム☆2017 (7/22～8/27)
- ・都電/地下鉄車庫見学会
- ・土器/勾玉づくり教室
- ・チャレンジ！昔の手仕事～藍染 ほか

講 座

- ドキュメンタリー「王子田楽の伝承」上映会 (7/9)
- 第30回新聞から読む考古学ー2017年上半期を振り返るー
..... (7/22)
- ザ！発掘シリーズ「お宝発見！！御殿前遺跡」..... (8/26)
- 映像企画2017特別セミナー (9/17)
- 戦中期消費組合運動と滝野川..... (9/23)
- 縄文人骨が語ること..... (9/30)

※催し物は仮称のものを含みます。()内の実施日は予定日です。詳細は、当館発行の催し物案内、北区ニュース、ホームページをご覧ください。

北区飛鳥山博物館だより ぼいす38

- 【発行日】平成29年3月20日
- 【編集・発行】北区飛鳥山博物館
〒114-0002 東京都北区王子1-1-3
TEL 03-3916-1133
- 【印刷】文明堂印刷株式会社